

登別市市民自治推進委員会「第17回役員会：議事録」

開催日時：平成23年11月28日(月) 18:30～21:00

開催場所：市民活動センター のぼりん2階

出席者：役員：木村・田中・大山口・平田誠治・川田・合田・瀧川・平田8名

一般委員：岡田敏治

事務局：松本主幹、沼田主査

配布資料

- ・全市観光とは？
- ・てしかが えこまち推進協議会
- ・「合田提言書」

議事 企画委員会の進捗状況

(1) 事業見直しに関する企画委員会（瀧川リーダー報告）

- ・11月21日 登別市議会 総務・教育委員会との情報交換会に出席した。

見直し委員会6名 総務・教育委員会6名 議会事務局3名 合計15名で実施。

これまでの企画委員会の報告を瀧川リーダーが報告

- ・これまでの事業仕分けのような個別事業を評価するのでは無く、行政の事業に関して内部から改善できるように人事制度や給与制度など提言出来るよう話し合いをしている。
- ・人事のあり方についてそれぞれがどのように捉えているのか、事業の計画によって内容が決まるので、計画策定の段階で市民が参加することが出来ないのかなどの内容で意見交換した。
- ・
- ・テーマを絞り具体的な内容にしなければ議論にならず行政職員とのディスカッションにはならないのでは、と参加議員よりアドバイスされた。

なお、今回は登別市議会 総務・教育委員会より、幅広く活動する市民団体との意見交換会に参加して欲しいとの要請を受けて実施されたものである。

(2) 全市観光に関する企画委員会報告（川田リーダー報告）

- ・11月22日に企画委員会を実施した。我々が捉える全市観光とは何かを確認した。

これまで収集してきた観光内容の調査内容を共有化することで、観光動態の変化・ニーズの多様化・観光資源の掘り起こし、温泉依存型の観光となっている。

観光テーマを5部会に整理することで、個別は充実しているがつながりが希薄で、市民においても地域間で意識の差がある。

これらのことから、当企画委員会の目的としてまち全域で魅力を磨き、自信と誇りをもって全

市民でおもてなし出来る観光地づくり、を掲げる。

そのために観光と基軸としたまちづくりの推進を一元的に継続性をもって行えるよう、モデルケースとして「てしかがえこまち推進協議会」がある。

・事業化していくためには他団体との意見交換会が必要となり、12月末までにはたたき台が出来そうな状況にある。年度末には登別市へ提言書として提出したい。

(3)合田提言書

・前回の宿題であった「今後の組織の在り方」について合田委員より、現在の課題・問題を提示し各委員の見解と今後について議論した。

・新しい組織に変更したが、各自日頃から考えているまちの課題・問題を議論し、その中から企画委員会が立ち上がるべきだがとの意見があったが、現在の組織はそのように進んでいる。各委員からの募集を行い、複数の提案があったが、企画委員会として設置することができたのは2つの企画委員会にとどまった。

この後、三役の考えを問われ、木村会長よりここ数ヶ月は全ての委員に役員会の開催および参加を図り、今後の市民自治推進委員会のあり方について意見を募ってきた。また現在の委員の任期が平成24年3月31日であることから、現役員の任期も同様となる。総会でもお伝えしたが一年かけて組織のあり方を検討し、場合によっては解散も含めて結論をだすことは繰り返しお伝えしてきている。

また、最高規範条例に謳われている後発の市民自治推進委員会が他団体の連携を図ることについても再三指摘されているが、未だ取り組めていない事や取り組み課題などを全て自分たちだけで行っていることも課題と言える。

さらには、多くの意見として付随機関的・諮問機関的な意味合いを持たせることも委員から出されていた。

このことを含め、3月までに一定の方向性の結論を出し、総会において決議後、登別市に対して今後の市民自治推進委員会のあり方に関する提言を出すべきだと考えている。また現在取り組んでいる企画委員会の活動についても3月までに一定の結論を出す方向で取り組む必要がある。

このことにより、現在の市民自治推進委員会は委員の募集について一時停止し、3月を目標に各企画委員会の活動を終える。総会后に提言書を登別市提出し、その後議会等で議論の結果、新しい組織として再スタートすることを市案を提示し協議することとする。

(4) 次回例会日：12月19日(月) 午後6時30分 のぼりん